

令和3年11月市長定例記者会見

日 時：令和3年11月16日（火） 午前11時～

場 所：射水市役所会議室401

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、
チューリップテレビ、エフエムいみず、庄東タイムス

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
未来創造課長、財政課長、市民課長、地域振興・文化課長、
社会福祉課長

○質疑応答の概要

Q 1. 予算編成方針について、令和4年度の新型コロナウイルス感染症の影響による税収減は令和3年度並みになる見込みと考えてよいか。

A 1. 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で回復はなかなか難しく、令和4年度についても、令和3年度と同程度の税収になると見込んでいる。今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況に大きく影響を受ける可能性もあるので、注視していきたい。このように歳入がそれほど伸びない中、歳出については高齢化の進展に伴う社会保障関係費の増や公共施設の老朽化への対応で今後も削減することが難しいものがあり、財政の状況は引き続き厳しい。しかし、昨年度は19億円ほどの財源不足があったが、令和4年度はここまで大きな財源不足にはならない見込みである。

Q 2. 予算編成方針のうち、政策経費をマイナス3パーセントシーリングに設定したことについての考えを伺いたい。

A 2. 令和3年度は厳しい財政状況もあり、マイナス10パーセントというかなり高いマイナスシーリングを設定した。しかし、令和4年度は経常的経費についてはシーリングを設けずゼロベースの視点からの経費の削減、政策的経費についてはマイナス3パーセントシーリングとした。これは、厳しい財政状況ではあるが、令和3年度ほどには大きな財源不足が見込まれないためである。なお、このマイナス3パーセントシーリングを達成することで、約4.3億円の財源の捻出を見込んでいる。

Q 3. 予算要求特別枠について、どのような事業が想定されるか。

A 3. DX を活用した自治会活動の負担軽減、地域コミュニティ力の向上に係る事業として、電子回覧板アプリの導入が考えられる。また、スマート保育・スマートスクールの推進事業や、ビジネスに交流を促すサテライトオフィスなどに関係する事業なども見込まれる。一方で、デジタル化の推進だけではなく、デジタルディバイドを解消する事業についてもしっかりと査定・検討していきたい。

Q 4. 11月14日に行われた射水市議会議員選挙についての所感を伺いたい。

A 4. 新人が多数当選されたため、フレッシュな印象で新しい顔ぶれになられたという感じがする。一方で、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した活動が求められたということで選挙戦そのものがなかなか盛り上がらなかったこと、女性の立候補者がいなかったため女性の関心が低かったことなどが投票率が低かった要因ではないかと考えている。今後は、議員経験をお持ちの方からは経験を踏まえた様々なご指導を、新人の方からは柔軟な発想をいただき、持続可能なまちづくり・満足度の高いまちづくりに向けて力を合わせて射水市の未来を切り開いていきたい。

Q 5. 新型コロナウイルスワクチンの3回目の接種について、2回目の接種の後の間隔を自治体の判断で8か月から6か月に短縮できるという方針が示されたが、射水市の接種スケジュールを見直す予定はあるか。また、見直すとすればどのような課題や懸念事項があるか。

A 5. 8か月経過後のワクチンの効果の状態、また6か月経過後に接種した場合の影響などについて情報収集が必要だと考えている。もし8か月を過ぎて急激に免疫力が低下していくということであれば出来るだけ早く接種したほうがいいのではないかと考え、一方で6か月が経過した段階での接種で副反応が強く出る可能性もあるので、十分に検討する必要がある。課題としては、ご協力いただく医療関係の方々との調整がある。また、1回目の接種の際、県内のそれぞれの市町村で接種券発送のタイミングを合わせる取り組みをしたが、3回目についてもそういったことを考えてはどうかという話も出ている。そういった県内の他の市町村との連携・協議も含めて、短縮するかどうか検討していきたい。

Q 6. 予算編成方針について、政策的経費をマイナス3パーセントシーリングに設定した判断材料は何か。

A 6. 令和3年度は大型事業を控えており、多額の財源不足が見込まれたのでマイナス10パーセントという高いシーリングを設定した。令和4年度は引き続き厳しい財政状況が見込まれるが、大型事業（学校の長寿命化、クリーンピア射水の基幹設備改良工事など）の目途が立ち、税収も大きくは下がらない見込みなのでそれほど大きなシーリングは必要ないであろうと判断した。

Q 7. 本日が4期目のスタートということで、市長の意気込みを伺いたい。

A 7. これまでの経験を活かし、市民の幸せの実現、市民とともに歩いていく市政運営に取り組んでいきたい。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の影響を市民一丸で乗り越えていき、将来にわたって活力に満ちた射水のまちづくりを具体的に実現しながら進めていきたい。また、これからのポストコロナのまちづくりについては、新型コロナウイルス感染症の影響によって市民一人ひとりの考え方や生活に求めるものが変化してきていることを踏まえた市の取組みが必要だと考えている。市民の様々な思いを受け止め、悩みに寄り添いながら、きめ細やかで信頼される行政を職員一丸となり進めていき、また市民とも力を合わせながら、幅広い年代、特に未来世代から選ばれるような市の実現に邁進していきたい。市民の皆さんのご理解やご協力、様々なお力添えをいただければと思う。